

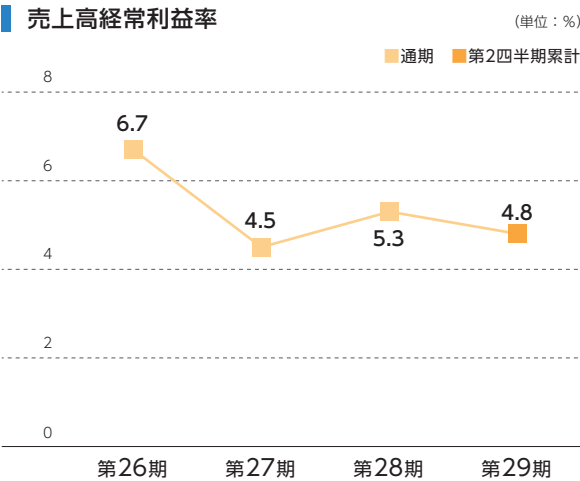
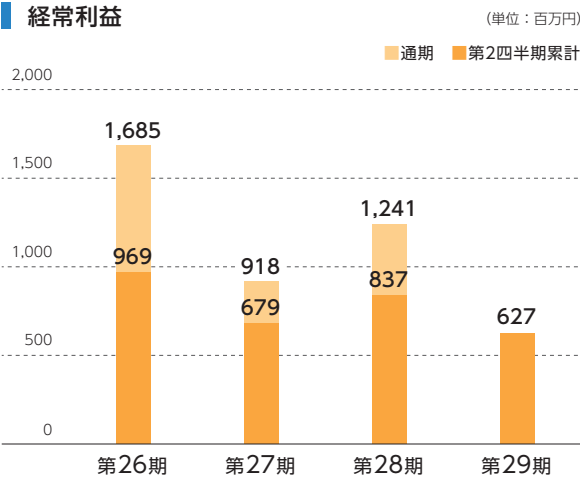
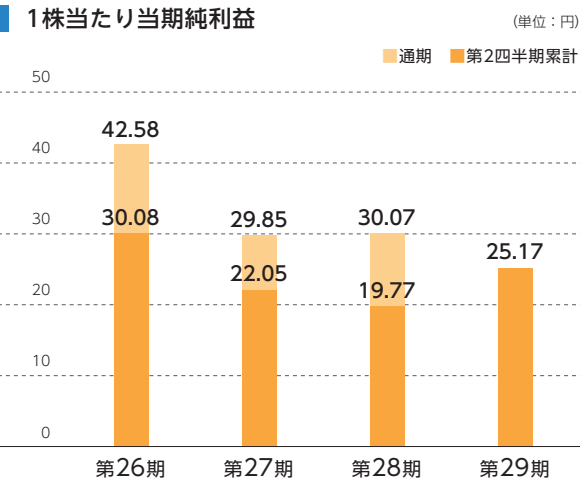
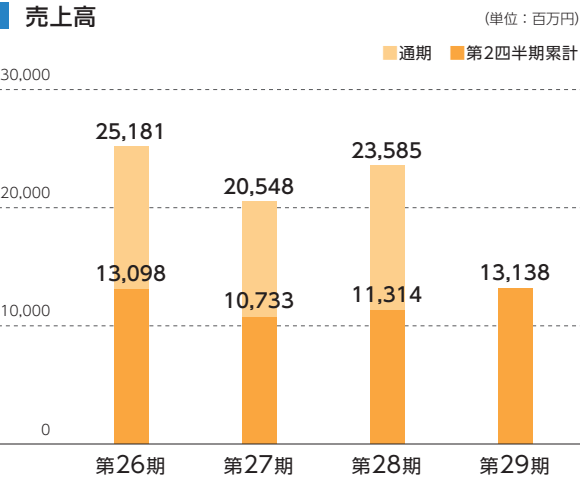
29th

Interim Business Report

第29期 中間報告書 ▶ 2014.4.1－2014.9.30

INNTECH CORPORATION





株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。

第29期第2四半期連結累計期間(2014年4月1日から2014年9月30日まで)の報告書をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

当第2四半期連結累計期間における、当社グループを取り巻く事業環境は、薄型テレビやデジタル・ビデオカメラなどの民生機器関連は低調に推移する一方、カーエレクトロニクス関連や放送装置などの産業機器関連は堅調に推移いたしました。

このような状況の下、当社グループの業績は、売上高131億38百万円(前年同期比16.1%増)、営業利益5億55百万円(同29.7%減)、経常利益6億27百万円(同25.1%減)、純利益4億42百万円(同27.6%増)となりました。通期の業績見通しにつきましては、事業環境の変化へ柔軟に対応し、公表予想(売上高260億円、営業利益11億50百万円、経常利益12億50百万円、当期純利益7億円)の確保を目指してまいります。

なお、中間配当につきましては、2014年11月10日開催の取締役会において慎重に検討いたしました結果、1株につき7円とさせていただきます。

今後も、利益確保に注力するとともに、法令遵守や環境活動などにも積極的に取り組み、更なる企業価値の向上を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、変わらぬご理解、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2014年12月

イノテックが目指すもの

- 1 半導体ビジネスを通じて、人々の生活を豊かで快適なものにし、「未来社会に貢献」する
- 2 創造力を駆使、携わるエレクトロニクス業界の技術の進歩に寄与し、「不可欠な存在」になる
- 3 我々の真の事業は「問題を解決すること」であり、顧客に満足いただく労苦を惜しまない
- 4 先端技術に挑戦し続ける「パイオニア」になる
- 5 創造力を発揮できる会社の仕組みづくりに心血を注ぐ、「誇りの持てる」会社を実現

配当金のご案内

2015年3月期中間配当について

2015年3月期の中間配当につきましては、今後の事業展開などを総合的に勘案し、2014年11月10日開催の取締役会で決議いたしました。

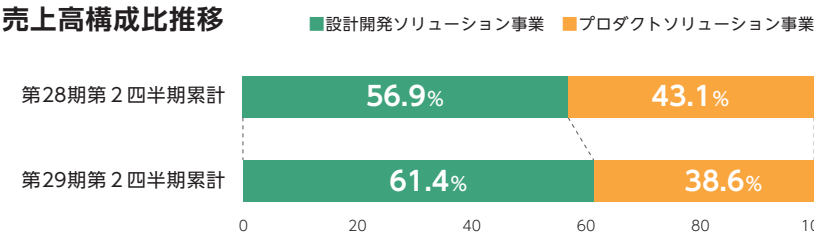
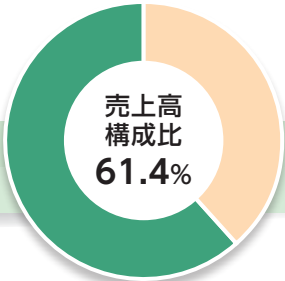
- | | |
|-----------------|------------|
| 1. 配当金 | 1株につき7円 |
| 2. 効力発生日(支払開始日) | 2014年12月8日 |

今後も株主の皆様への安定した利益還元に努めてまいります。

当第2四半期累計期間の連結業績のポイント (2014年4月1日～2014年9月30日)

売上高
131億38百万円
前年同期比16.1%増

営業利益
5億55百万円
前年同期比29.7%減



【セグメント区分の変更】
近年の事業環境の変化に伴うビジネスモデルの転換を図るため、2014年7月1日付けで実施した組織変更に伴い、第2四半期連結会計期間より事業セグメントを「設計開発ソリューション事業」「プロダクトソリューション事業」の2区分に変更いたしました。

セグメント別の概況 >> 設計開発ソリューション事業

- EDAソフトウェア部門は、既存顧客の需要増や長期契約の更新、および新規顧客の獲得などにより増収。
- 三栄ハイテックスは、自動車、イメージセンサー向けなどの案件が伸びたことにより増収。
- 組込みシステム部門は、防衛、インフラ設備向け案件が伸びたことにより増収。
- ガイオ・テクノロジーは、自動車メーカー向け検証ツールおよびエンジニアリング・サービスが好調だったことにより増収。
- アイティアクセスは、受託開発売上の回復がみられたものの、組込みソフトウェアのライセンス販売の鈍化により減収。



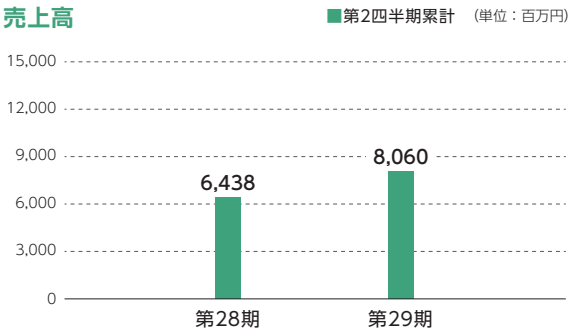
EDAソフトウェア



CPUボード

売上高
80億60百万円
前年同期比25.2%増

セグメント利益
5億5百万円
前年同期比56.1%増



※当第2四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更したため、第28期については(変更後の区分に基づき作成した)第2四半期累計期間の実績のみを記載しております。

セグメント別の概況 >> プロダクトソリューション事業

- 自社製テストシステム部門は、海外半導体メーカー向けが順調だったものの、国内向けは前年同期実績に及ばず減収。
- HDD部門は、OA向けの受注回復により増収。
- デバイス部門は、高画質デジタル機器対応チップの需要増やファンドリリー・ビジネスの拡大により増収。



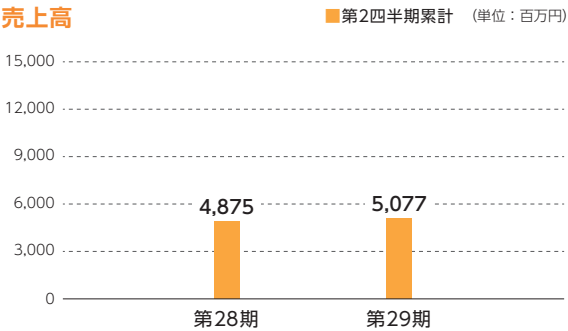
CMOSイメージセンサー向けテスター



HDD

売上高
50億77百万円
前年同期比4.1%増

セグメント利益
3億円
前年同期比66.5%減



※当第2四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更したため、第28期については(変更後の区分に基づき作成した)第2四半期累計期間の実績のみを記載しております。

■ 四半期連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

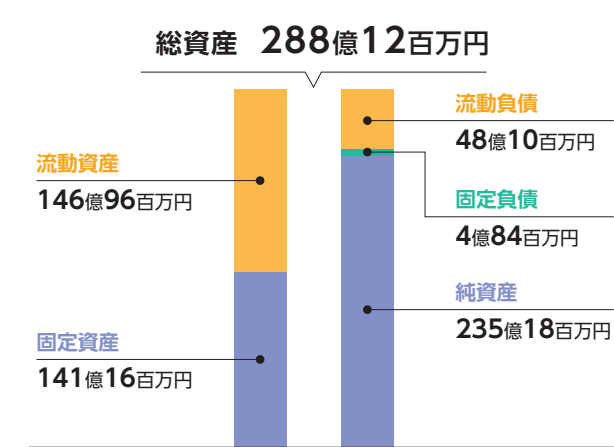
科目	当第2四半期 2014.9.30	前 期 2014.3.31
資産の部		
流動資産	14,696	15,030
固定資産	14,116	13,027
有形固定資産	10,047	10,112
無形固定資産	880	948
投資その他の資産	3,188	1,966
資産合計	28,812	28,058
負債の部		
流動負債	4,810	4,224
固定負債	484	696
負債合計	5,294	4,920
純資産の部		
株主資本	22,918	22,516
その他の包括利益累計額	156	210
新株予約権	232	194
少数株主持分	210	216
純資産合計	23,518	23,137
負債・純資産合計	28,812	28,058

POINT

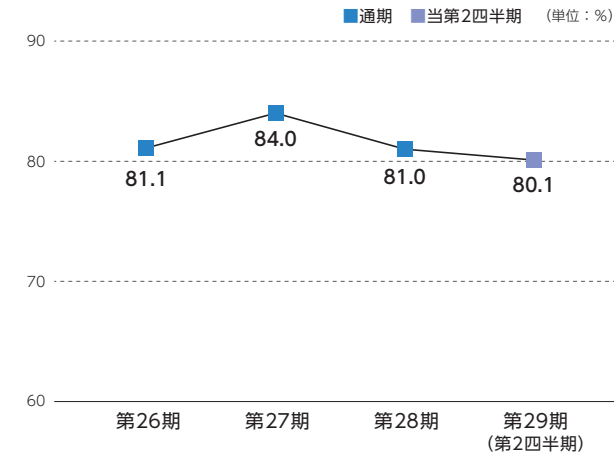
当第2四半期末の財政状態は、総資産が288億12百万円となり、前期末に比べ7億54百万円増加いたしました。一方、負債は3億73百万円増加し、52億94百万円となりました。

純資産は3億80百万円増加し、235億18百万円となりました。この結果、自己資本比率は80.1%と前期末に比べ0.9ポイント低下いたしました。

■ 総資産の構成 2014.9.30現在



■ 自己資本比率



■ 四半期連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

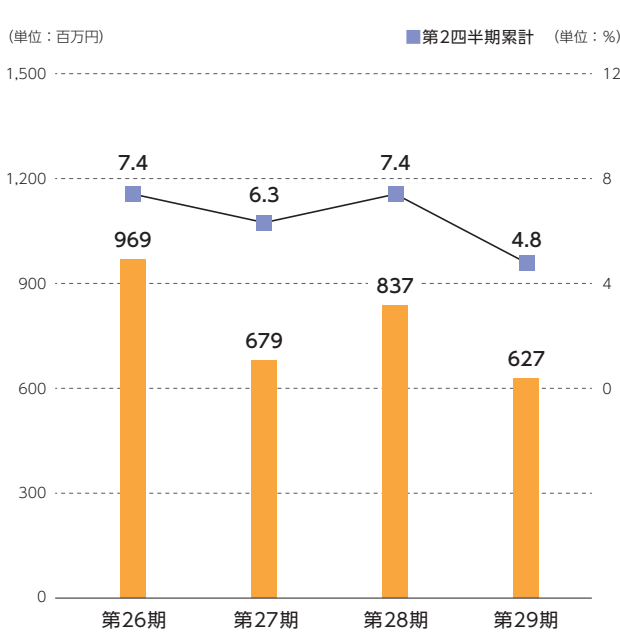
科目	当第2四半期累計 2014.4.1~2014.9.30	前第2四半期累計 2013.4.1~2013.9.30
売上高	13,138	11,314
売上原価	9,948	8,034
売上総利益	3,189	3,279
販売費及び一般管理費	2,633	2,489
営業利益	555	790
営業外収益	264	279
営業外費用	193	232
経常利益	627	837
特別利益	0	1
特別損失	0	216
税金等調整前四半期純利益	627	622
法人税等(※)	191	273
少数株主損益調整前四半期純利益	436	349
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△ 5	2
四半期純利益	442	346

(※)法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

POINT

当第2四半期連結累計期間の業績は、前年同期比で増収となりました。2014年1月に買収したガイオ・テクノロジーが今期から連結業績に寄与したことが主な要因となっております。営業利益・経常利益は減益となりましたが、特別損失が大幅に減少したため四半期純利益は27.6%増の4億42百万円を計上しました。

■ 経常利益／売上高経常利益率



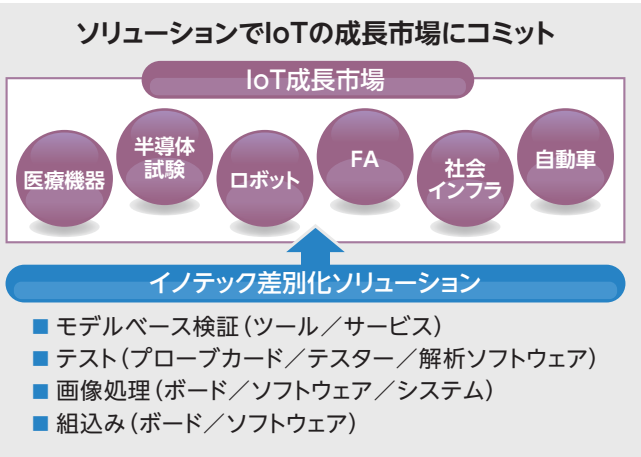
POINT

当第2四半期連結累計期間の経常利益は、前年同期比25.1%減の6億27百万円を計上いたしました。売上高は増加したものの主力の自社製テストシステムが前年同期実績に及ばなかったことで利益額が減少したことが主な要因となっております。

イノテックは2014年度を“第二の創業”と捉え、収益性の向上を図るため事業ポートフォリオを転換し、グローバルにビジネス展開できるトータル・ソリューション・ベンダーを目指してまいります。

あらゆるモノがインターネットでつながるIoT (Internet of Things) 時代を見据え、自動車、医療、産業機器向けを中心に事業の重点をシフトしてまいります。

具体的には、EDAソフトウェア／検証ツール事業、組み込みシステム事業、テストシステム事業、画像処理システム事業を成長事業と位置付けております。



EDAソフトウェア／検証ツール事業

主力のCadence製EDAソフトウェア販売に加え、国内自動車メーカー各社と取引があり、業界デファクト・スタンダードである車載ソフトウェア検証ツールを販売しているガイオ・テクノロジーを子会社化したことで、自動車関連ビジネスへの本格進出やガイオ・テクノロジーが自動車市場で培った製品・ノウハウの他市場への展開を図ってまいります。

テストシステム事業

自社開発テスターは、量産テスト工程および開発工程で利用されていますが、台湾のSTAr Technologies, Inc.との連携で技術開発力の向上が期待されるほか、アナログデバイスやパワーデバイスのテスト・ソリューションおよび信頼性評価もワンストップで提供可能になります。既存顧客への販売に加え、アジアを中心としたグローバルな市場開拓が期待できます。

組み込みシステム事業

インテルのプロセッサーを搭載した自社製組み込みCPUボード、ネットワーク・プロセッサー、アイティアクセスの組み込みソフトウェアを組み合わせて独自のノウハウを結集したボード・ソリューションをご提供しております。市場としては、社会インフラ、通信インフラ、セット・トップ・ボックス、デジタルサイネージ、産業機器、介護ロボットなど幅広い分野が想定されます。

画像処理システム事業

レグラスの高い画像処理技術を活かし、半導体試験などの検査装置市場、アラウンドビューなどの自動車市場、道路検査などの社会インフラ・監視関連市場、レントゲン・内視鏡などの医療機器市場において、従来の開発受託ビジネスに留まらず、自社企画製品を幅広くご提供し、積極的なビジネス展開を図ってまいります。

STAr Technologies, Inc.を子会社化することで基本合意

イノテックは、STAr Technologies, Inc. (本社:台湾新竹市以下STAr)の既存株主から株式を取得することにより過半数以上の株式を所有し、子会社化することで基本合意いたしました。

STArは、半導体検査装置／プローブカードなどを製造・販売する先端企業であり、高い技術力と開発力を有しております。

STArとの連携を深めることで国内の特定顧客への依存、テスターの単品売りといった、これまでテスタービジネスが抱えていた課題を克服し、アジアを中心とした市場開拓と顧客の拡大、製品ラインナップの拡充などにより、ビジネスの安定的拡大を図ります。

また世界でも類のないテストに関するワンストップ・トータル・ソリューションが提供可能となります。アナログデバイスやパワーデバイス、イメージセンサーの量産テストはもとより、テスト技術開発、品質保証、信頼性評価、不良解析などのすべての領域に対して先端技術ソリューションをご提供いたします。

※2014年10月3日付でイノテックの連結子会社となりました。



信頼性テストシステム

【STAr Technologies, Inc.の会社概要】

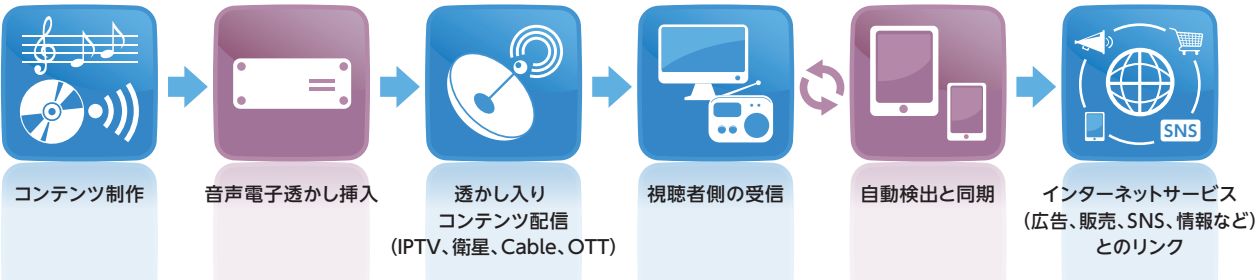
設立：2000年
所在地：4F., No.158, Gongdao 5th Rd., Sec.2, Hsinchu City 30070, Taiwan
事業内容：半導体検査装置、パラメトリック・テスター、信頼性テストシステム、プローブカードなどの製造・販売

Civolution社のSyncNowがWOWOWの海外ドラマ番組連動型アプリケーションに採用

アイディアアクセスは、株式会社WOWOW (以下WOWOW)とテレビ番組と同期するスマホ・タブレット向けアプリケーション「ドラマ de 英語」向けに、オランダCivolution製音声電子透かしによる同期ソリューションSyncNow 2nd Screenのサブライセンス契約を締結しました。

WOWOWの視聴者は、「ドラマ de 英語」をインストールしたスマホ・タブレットに音声を聞かせるだけで、セカンドスクリーンとしてドラマの進行に完全に同期した英語と日本語の字幕を同時に楽しむことができます。

仕組み



【音声電子透かしとは】

音声電子透かしとは、オーディオコンテンツ(ファイルまたはサウンドトラック)に組み込まれるデジタル情報です。この情報がコンテンツの不変の識別情報となって、後からデバイス上でこの情報を取り出すことで、コンテンツの認識、保護、同期、マネタイズに使用することが可能です。確実に素早く取り出すことができ、かつオリジナルの品質を損ねないように透かしを挿入するところに各メーカーの技術力が問われます。

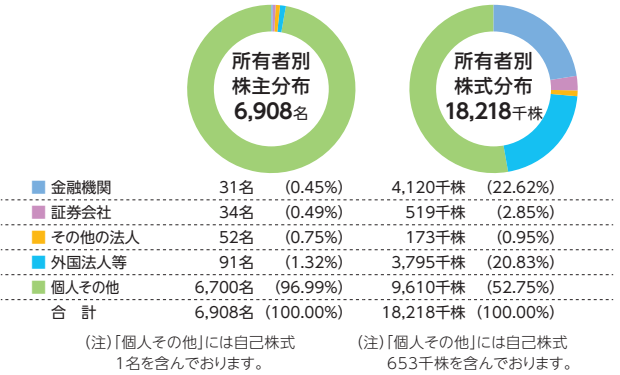
発行可能株式総数	36,000,000株
発行済株式の総数	18,218,901株
株主数	6,908名

大株主の状況

株主名	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	798	4.54
CMBL S.A. RE MUTUAL FUNDS	571	3.26
大塚 歓一郎	500	2.85
CADENCE TECHNOLOGY LIMITED	456	2.60
株式会社みずほ銀行	420	2.39
SIX SIS LTD.	400	2.28
株式会社三井住友銀行	320	1.82
イノテック社員持株会	305	1.74
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	303	1.73
第一生命保険株式会社	280	1.59

(注) 持株比率は自己株式653千株を控除して計算しております。

所有者別株主分布・所有者別株式分布



(注) 本報告書の記載金額および数量は、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。また、比率は表示単位未満の端数を四捨五入して表示しております。

会社概要

商号	イノテック株式会社 INNOTECH CORPORATION
設立	1987(昭和62)年1月5日
資本金	105億17百万円
従業員数	連結 737名 個別 211名
所在地	本社 横浜市港北区新横浜三丁目17番6号 大阪支社 大阪市中央区南本町二丁目6番12号 サンマリオンNBFタワー16階 物流センター 横浜市神奈川区三枚町33番 新横浜MTビル 台湾事務所 10F., No. 209, Sec. 1, Civic Blvd., Datong Dist., Taipei City 103, Taiwan
グループ企業	三栄ハイテックス株式会社 ガイオ・テクノロジー株式会社 アイディアアクセス株式会社 株式会社レグラス INNO MICRO HONG KONG LTD. INNO MICRO SINGAPORE PTE. LTD. INNO MICRO (SHANGHAI) LTD.
主な取引銀行	みずほ銀行 三井住友銀行 北陸銀行 三井住友信託銀行 横浜銀行 三菱東京UFJ銀行

役員

代表取締役会長	澄 田 誠	取締役(非常勤)	川 島 良 一
代表取締役社長	小 野 敏 彦	取締役(非常勤)	村 瀬 光 正
常務取締役	鎬 木 祥 介	常勤監査役	酒 井 慎 二
常務取締役	高 橋 尚	常勤監査役	中 島 俊 雄
取締役	大 塚 信 行	監査役	内 藤 潤
取締役	棚 橋 祥 紀	監査役	田 中 伸 男
取締役	間 淵 義 宏		

(注) 取締役の村瀬光正は、社外取締役であります。
常勤監査役の中島俊雄、監査役の田中伸男および内藤潤は、社外監査役であります。
村瀬光正、中島俊雄、田中伸男は、独立役員として東京証券取引所に届け出ております。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
単元株式数	100株

【株式に関する住所変更などのお届出およびご照会について】

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。

証券会社の口座のご利用がない株主様は、下記の電話照会先までご連絡ください。

株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	☎ 0120-782-031
インターネット ホームページURL	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更などのお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

公告方法	当社のホームページに掲載する。ただし当社ホームページにて公告を行うことができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して公告する。 http://www.innotech.co.jp/
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部

ホームページのご案内

当社ホームページでは、株主・投資家の皆様に対して、企業情報や財務情報をはじめとして、事業活動やその動向を紹介しております。当社をよりご理解いただくためにもぜひアクセスしてください。



トップページ



IR情報ページ



本社 / 〒222-8580 横浜市港北区新横浜三丁目17番6号
Tel: 045-474-9000(代) Fax: 045-474-9089
URL : <http://www.innotech.co.jp/>



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

